

経営一転語 78 社長が外に出ると人材が育つ

タイトルを見て、「あれ、そうなの？」と思った方が多いのではないのでしょうか。

社長が会社の中にいるということは、いかに管理職や社員を信頼していないかを、言外に示していると言ってよいでしょう。

社員の心理としては、社長の意に沿わないことをして、叱られたくないので、いちいち社長にお伺いを立てるものです。

管理職や社員として、このやり方の方が楽だし、責任を追及されないから、お伺いを立てるのです。

しかし、こういうことを続けていては、管理職や社員が育つはずがありません。

「いつまでたっても独り立ちできない。」「うちにはどうして人材が育たないのか。」「いちいち、こんなことまで、聞いてくるな！」という社長の悩みや愚痴の原因は、社長自身がその原因になっていることが多いのです。

そうと分かったら、会社の中にいるのではなく、社長は会社から外に出て、お客様訪問をしながら、外部環境の変化を肌で感じ取り、管理職や社員は、自分自身の責任で判断させ、行動させるべきです。

そうすることで、管理職や社員が育っていくのです。

さっそく、社長は外に出て、お客様訪問をし、お客様の意見を聞き、お客様のニーズを感じ取り、お客様の不平や不満、クレームなどを、直接、自分の目で見て、自分の耳で聞き、我が社の生き筋を肌で感じ取りましょう。